

平成 22 年度第 1 回中原区区民会議摘録(抜粋)

日 時 平成 22 年 7 月 23 日(金) 15:00～17:30

場 所 中原区役所 5 階 502、503 会議室

【議題】

第 3 期中原区区民会議で取り上げる検討テーマについて

【防災・安全・安心】

●青木委員(連番 2)

民生委員 90 周年記念事業(平成 19 年)としておこなった、災害時要援護者に対する「災害時、一人も見逃さない運動」について、丸子地区全体に広め、さらには中原区全体に広めたい。これは民生委員の行動基準を設けて、人命救助を優先して対応を行い、自主防災(町内会)と連携して対応する制度である。

●松原委員

避難所の 4 割が耐震性に不足があると言われているが、中原区ではどうなっているのか調べる必要がある。中原区の小中学校にある避難所がどうなっているか今回調べる必要がある。

●松本委員

子育てサロンに来るお母さん方は、「どこに避難所があるのか」「どこで非常用食料が、もら得るのか」知らないし、関心がない。もともと町会とか地域との関わりも希薄の年代でもある。一人ひとりの意識を変えていく必要がある。これらはコミュニティの問題である。第 3 期では、みんなが関心を持ち、みんなで取り組み出来るテーマを設定するべきである。

●岡本委員

マンションに住んで生活しているが、まったく情報が流れてこない。身体が不自由な家族を抱えているが災害時にどうしたらよいか情報が流れてこない。周囲には不安で眠れないという声も聞いている。地域全体に関心を持てるようなテーマを設定するべきである。

●富岡委員

防災に関して、民生委員では「一人も見逃さない運動」を行っており、弱者の方の名簿を作り、民生委員と町会長がこれを持っていて、災害が発生したときにこれを活用することとしている。

これからやりたいことは、町会と連携して防災訓練やろうと考えている。地域振興課で持っている「要援護者」の組織と民生委員の「一人も見逃さない運

動」の組織を合体して対応することが望ましいが、縦割りの弊害があり上手くいっていない面がある。

また、多摩川が氾濫した場合の対応も考える必要がある。

●矢野委員

企業では、災害時に対応するために、BCP(事業継続計画)を立てるように言われている。中原区には、免震構造の装置を作っている企業もある。

災害に対して最大限のことを想定して対応をするよう心がけているが、まずは、人の命を最優先に考えるような対応していきたい。

●鈴木委員長

防災では、耐震などのハードの面もあるが、子育て、弱者への対応などのソフトの面の話があった。また、情報不足から不安になっているという話もあった。富岡委員の話にもあったように、これは縦割りではなく、横で手をつないでいかないと自分の命を守れないと思った。

【福祉・健康】

●藤嶋委員

子育ての話にもつながるが、先日の「なかはらっば祭」で、区長から、中原区では30代、40代の子育て世代が増えていて、高齢者がサロンで子ども達の面倒をみている話を聞いた。それを近所のお年寄りに話しをしたら、毎日することがなくて退屈しているのでお手伝いしたいと言っていた。これはすぐにも出来るし、両者にとって良いことなので高齢者と子育ての連携を進めるべきだと思った。

●吉房委員

高齢者の福祉、中原区は人口が増えていて、子どもも増えていて私の家の近所にも4つの保育園がある。また、各町会には公園があり、保育園の子ども達と保育士が砂場で遊んでいる。地域の老人会や中学生などが砂場で遊ぶような機会が出来ればよいと思っている。また、特に老人が子どもと遊ぶことは、老人の知恵が子どもに伝わり非常に教育的に良いことであると考えて提案した。これは、老人の認知症予防にもつながるものであるとも考えている。

地域に密着した課題について、良い点、悪い点を出しあい、良いことについては、町内会の掲示板などで広報していくことを、現在、子ども会と連携して始めている。

●反町委員

地域での交流や情報交換が少ないと感じるので、そのような仕組みづくり、環境づくりを区民会議で行う必要がある。

【子育て・教育】

●大下委員

30代、40代の子育て世代が地域の方と連携が取り難いという声がある。また、地域と連携するために、行動に移す方法が分からないという声もある。何かきっかけになるようなことを出来たら良いと考えている。

●川崎委員

積極的に出ていけるような方はいいが、こもってしまっている方に、どうすれば出てきてもらえるのか、そこを考えていく必要がある。

●青木委員

犯罪の低年齢化も問題とされている。乳幼児の虐待も問題であるが、行政としては「こんにちは赤ちゃん事業」で95%の新生児の家庭をカバーしているということである。親の友達づくり、育児方法の相談など、早い段階で「子育てサロン」に参加することにより若いお母さんの問題を解消できると考えている。

【その他】

●反町委員(59番)

武蔵小杉再開発エリアでの情報発信について提案がある。新しく中原区に住まわれた方と交流することは重要と考えているところだが、中原区のいろいろな情報について、伝わらないということについて問題と考えている。具体的な手法としては、インターネットで情報を伝える方法、イベントなどで交流を深める方法があるのではないか。

●鈴木委員長

岡本委員からも情報が伝わらないことが問題であるという発言があった。情報をいかに発信していくか、どのように伝えていくかが重要である。

●松原委員(41番)

平成23年から、ミックスペーパーの回収が始まる。横浜市では守らない人には罰金の制度があり、逆に協力する町内会には協力金が配布される。ミックスペーパーの回収制度が始まるとマンションに管理者がいないと無法地帯となる。一定のルールを作る必要がある。

●吉房委員

今日の話の聞いているとマナーの問題が多い。人間関係が希薄になっていくと奉仕の精神がなくなっていく。そうすると、まちの問題が改善されないように感じる。奉仕的な精神になるように区民会議で仕掛けていかないといけない。

●鈴木委員長

第2期で取り組んだ案件だからもうやらなくてもいいというのではなく、放置自転車など繰り返し、継続的に取り組んでいく必要がある。

●杉野副委員長

災害の際には自助努力の中で対応する必要がある。また、近所の方に助けられるケースも多くある。行政が不在の場合も考えられるので、自分達でどこまでできるか把握する必要がある。いろいろ部署がかかると、底が深くてなかなか前に進まないということもある。災害の問題は多くの意見が出たので、関心が高いと感じた。

●川連副委員長

放置自転車の対策について取り組んできた、これからも続けていく。最近、点字ブロックの上に自転車を放置する方に対して、点字ブロックの意味を伝える呼びかけをはじめた。

●芳賀委員

放置自転車のことは、モラルなど根が深い問題である。自転車は小学生を中心に10年先を見据えて取り組みを進めている。先過ぎて苦しいところはあるが取り組みを続けている。区民会議では、その期ごとのテーマを重点的に取り組んでいくが、1期、2期でテーマとして取り扱った案件も忘れずに取り組みを続けていきたい。

ボランティアをしてくれる方が少ないことを感じている。1人でも多くの方にボランティアをやってもらえるような取り組みをしないといけない。

●山川委員

ボランティアが少ないという原因は、学校の教育によるものか、または、忙しいため余裕がなく、手が回らないことが考えられる。夏のラジオ体操も実施しているところが少なくなっている。また、子どもだけが出てくる例が多くなっている。単会を上手く組織しないと、子どもは参加しないし、役員も参加しなくなる。

●板倉委員

夏休みに区内の小中学校にお願いをしてマナーアップポスターを書いてもらっている。これまでに1,200件位募集し、その中に標語があるが、「放置自転車」「ごみ問題」「地球温暖化」「タバコのポイ捨て」「お年寄りを大切に」など色々あるが、区民会議で出てきた問題の7割位をカバーしている。ということは、区民会議で考えている問題と子ども達が考えている問題が同じであるということである。

●寺岡委員

本日、コミュニケーションの問題が出ていた。私が参加した「歩こう会」で、再開発地区のマンションに住んでいる方と一緒にあったことがあり、同じフロアの方と話しをしたことがないとのことであった。マンション業者も開発の責任者として、マンションを建設する際に「交流の場を設ける」「町内会に参

加する」など、なんらかの道筋をつけられないのかと思う。また、「引越しそば」などの習慣もなくなり、行政も突っ込んで誘導する必要があると感じた。

●鈴木委員長

本日、多彩な意見が出された。この意見を基に、運営部会で検討したうえで、次の区民会議のテーマとさせていただきたい。行政への声もあったが、行政だけでは出来ない問題も多くあった。また、行政の縦割りの問題もあるが、市民団体としてのPTA、子ども会なども縦割りになっている、その様なことも踏まえて次のテーマを決定できればと考えている。